

○へりくだりの王の入城：三つの場面

1. 王様に対する_____ (12-13)

▶「過越の祭り」

※マタイ21:9

「そして、群衆は、イエスの前に行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。「ダビデの子にホサナ。…」

▶「しゅろの木の枝」

▶「ホサナ」

▶「祝福あれ。主の御名によって来られる方に。」(cf. 詩篇118:26)

※ヨハネ8:24

「それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わたしのことを信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。」

2. 王様が示された_____ (14-16)

▶「ろばの子」

※ゼカリヤ9:9

「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。」

※マタイ21:4

「これは、預言者を通して言われた事が成就するために起こったのである。」

※ピリピ2:6-8

「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」

3. 王様に対する_____ (17-19)

「彼らは決して沈黙することなく、自分たちが目にしたことを証し続けていました。そのことによって、しるし自体が証していた真理をさらに確かなものとし、同時に、真理について証する全ての者の模範となったのです。」(DAカーソン)

※黙示録19:11-16

「また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があつて、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。…その着物にも、ももにも、「王の王、主の主」という名が書かれていた。」